

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 11 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21730723

研究課題名（和文） 通常学級に在籍する発達障害児の自尊感情と教育的支援法の開発・普及

研究課題名（英文） Self-Esteem of Children with Developmental Disabilities and Educational Practice

研究代表者 小島 道生 (Kojima Michio)

岐阜大学・教育学部・准教授

研究者番号：50362827

研究成果の概要（和文）：本研究では、通常学級に在籍する発達障害児の自尊感情とその規定要因について横断的研究と縦断的研究から検討し、その特徴を示した。また、教師へのアンケート調査及び面接調査を通して、通常学級での発達障害児の自尊感情支援に関する実態と課題、教師自身の自尊感情と支援の関係性について明らかにした。そして、先進的な取り組みをしているイギリスの教育機関での視察や教師への面接調査、さらには日本におけるアンケート調査及び面接調査を通して、学校教育現場で適用可能な発達障害児に対する自尊感情の教育的支援法を開発し、その効果について検証し、教育的支援法の在り方について検討した。

研究成果の概要（英文）：The present research examined characteristic of the self-esteem of children with developmental disabilities and factors that influence their self-esteem. The participants in the study were 20 children with pervasive developmental disorders (PDD). The main results were as follows (1) : the self-esteem of children with PDD was influenced by self-evaluation and social support;(2)the self-esteem was influenced by chronological age and IQ; (3) there is individual difference in self-esteem of children with PDD.

Next, this study examined the self-esteem of teachers themselves as a factor that may affect self-esteem support for children with developmental disabilities. Moreover, this study also examined room assignment, which results in different amounts of time a teacher spends directly with a child with developmental disabilities, as a factor that may affect self-esteem support for those children. Subjects were 914 elementary and middle school teachers. Analysis shows the self-esteem of teachers themselves must remain somewhat high so that they are sufficiently aware of self-esteem support for children with developmental disabilities and actually seek to provide that support. Both elementary and middle school teachers were that teachers who most often interact directly with children with developmental disabilities, i.e. special needs teachers and resource room teachers, had greater recognition of the need for support in enhancing self-esteem than did regular classroom teachers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：特別支援教育、発達障害、自尊感情

1. 研究開始当初の背景

通常学級に在籍する発達障害児の二次症状を予防するには、自尊感情を低下させないことが指摘されてきた。しかし、我が国では発達障害児の自尊感情の実態については、欧米諸国に比べて十分に明らかになっていない。また、通常学級での発達障害児の自尊感情に関する効果的な支援の在り方についても明らかになっていない。つまり、発達障害児の自尊感情の大切さは数多く指摘されてきたものの、その特徴すら十分に明らかにされておらず、効果的な指導方法や教師の取り組みの実態も不明な現状がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、通常学級に在籍する発達障害児を対象として、自尊感情の特徴及び規定要因を横断的及び縦断的研究により明らかにし、通常学級の教育現場で適用可能な適切な自尊感情の改善や低下予防を目指した教育的支援法を開発し、その普及を目指すものである。

3. 研究の方法

研究の具体的な方法は、以下の通りである。

- ① 発達障害児を対象とした面接調査により、自尊感情の特徴とその規定要因について横断的研究及び縦断的研究により明らかにする。
- ② 教師を対象としたアンケート調査及び面接調査により、発達障害児に対する自尊感情支援の実態、教師の自尊感情、効果的な教育支援の在り方について明らかにする。
- ③ 発達障害児の自尊感情支援について、先進的な取り組みを行っているイギリスの学校を訪問し、現地での視察及び教師を対象とした面接調査、さらには国内での発達障害児や教師を対象としたアンケート調査及び面接調査を踏まえて、我が国で適用可能な発達障害児に対する自尊感情支援法の開発を試みる。そして、実際に教育現場での教育実践や事例研究を実施し、その効果について検証する。
- ④ 研究成果を広く教育現場に普及させるために、インターネットを活用したり、報告書を作成して配布する。

4. 研究成果

主に研究1年目の成果としては、発達障害児の中でも、広汎性発達障害児については自尊感情と自己評価、ソーシャルサポートとの

間に一定の関係が認められ、さらには本人の生活年齢や知能指数などとの関係についても、示唆された。自尊感情の規定要因としては、特にソーシャルサポートが重要な影響を及ぼしており、本人にとって満足のできるサポートを受けられるような対人関係を支援していくことが大切になってくることが明らかとなった。

次に、小学校と中学校の通常学級の担任の教師を対象としたアンケート調査研究から、小学校と中学校教師における自尊感情について、違いはないことが明らかとなった。そして、教師の発達障害児の自尊感情に関する指導の意識について、因子分析を行った。その結果、「ポジティブ経験の実践」、「ネガティブ経験の予防」、「教育現場での支援の必要性」の3つの因子に分かれていることが明らかとなった。教師の自尊感情の高低とこれら3つの因子について、いずれも関係が認められていることが明らかとなった。したがって、自尊感情の高い教師ほど、発達障害児の自尊感情の支援を行っている可能性が明らかとなった。つまり、発達障害児の自尊感情の支援については、教師自身の自尊感情をまず適度に高めることが大切になってくると考えられる。

次に1年目から2年目における主な研究成果については、通常学級の担任の教師を対象としたアンケート調査及び面接調査より、発達障害児の自尊感情の効果的な支援の在り方として、個別支援と一斉指導での具体的な方法論が示唆された。そして、小学校通常学級での発達障害児に対する自尊感情の支援としては、「個別の関わりの支援」(例；その子自身に対する褒めたり認めること、注意・叱責の低減、そしてその子の良さを認めるといった内容など)、「達成経験の確保と失敗の低減」(例；教材工具の工夫、スモールステップの実践など)、「集団づくりに関する支援」(例；一人一人を大切にされた学級集団作りの実践など)、「連携に基づく支援」(例；家庭と連携し、褒められる機会を確保する、担任以外の教師も共通理解を深め、理解不足から生じるつまづきを減らすなど)といった4つの観点から整理された。中学校通常学級においても、類似しており、「個別の関わりの支援」、「達成経験の確保」、「その他」という観点から整理された。

そして、発達障害児の自尊感情を支援する上での困難性としては、自尊感情の低下している対象児に対して、「どのような支援を展開すればいいのかわからない」、あるいは「自尊感情を支援するための具体的な方法論がわからない」といったように、自尊感情の支援の方法論について悩んでいる実態が明らかとなった。特に、中学校では「もう既に自尊感情が低下してしまっている生徒に対して、自尊感情を回復させることが難しい」といった悩みも明らかとなった。したがって、発達障害児の自尊感情の支援方法について、「予防」と「回復」という観点から整理をし、具体的方法論について広く普及していくことが大切であると考えられた。

また、自尊感情を高める授業実践について調査を行ったところ、小学校よりも中学校において自尊感情を高めることに関する授業実践の取り組みが盛んに行われていることが明らかとなった。自尊感情について、小学校通常学級では、「道徳」の中で取り上げていることが最も多く、その内容は様々であった。具体的な内容としては、「自分の良さについて再発見する授業」「生命の尊さについて考える授業」といった取り組みが報告されていた。中学校では、「エンカウンター」という回答が最も多く認められており、自尊感情を育てるエクササイズが展開されていることが示された。

しかし、その一方で小学校と中学校に共通して、自尊感情の授業について「特に、自尊感情を意識して取り組んだことはない」という回答も認められていた。さらに、小学校では自尊感情の授業の効果について、「どのような方法で、客観的な評価を行うのか」といった評価方法についても、課題が指摘されていた。したがって、小学校及び中学校に共通して、教育現場では自尊感情に焦点をあてた授業実践はまだ十分に普及していない可能性があり、また教育現場では自尊感情に焦点をあてた授業実践の客観的な評価方法に課題が残ることも明らかとなった。

そして、発達障害児の自尊感情に対する教育的支援法の開発のために、先進的な取り組みを行っているイギリスにおける小学校及び主に発達障害・軽度知的障害児を対象とした特別支援学校の視察と教師を対象とした面接調査を行った。イギリスにおける発達障害児に対する指導上の工夫や課題などが明らかになるとともに、日本でも実施可能な自尊感情支援の具体的な方法について、有益な資料や情報を得ることができた。

さらに、3年目の最終年度においては、こ

れまでのアンケート調査、面接調査、海外視察の研究知見を集約して、通常学級における発達障害児の自尊感情の低下を予防したり、既に低下している発達障害児の自尊感情の改善を目指した教育活動の方法論の開発を行い、その効果について、検討を行った。具体的には、教師を対象とした面接調査や研修会を学校現場で実施し、子どもの自尊感情に関する調査を実施しながら、効果的な教育実践の在り方について検討を行った。その結果、自尊感情の低下を予防し、改善を行う具体的な授業や指導での工夫について明らかにすることができた。なかでも、小学校段階では学級全体で取り組む教育活動として、自分の良さを発見し、他者からも自分自身の良さについて指摘を受けるといった自己の良さを再発見する教育活動を一定期間展開することで、子どもの自尊感情を変容させられる可能性が示唆された。これは、自分自身での認知的変容と、他者からの指摘による自己認知の変容であり、両者を混在させながら継続的に展開することで、一定の成果があると考えられた。

また、小学校高学年の頃からは、結果が変わらないことに対して、どのように認識を変容していくのか、ネガティブな思考ではなく、ポジティブな思考へと変容する認知的変容の取り組みについて、効果があることが示唆された。

さらに、本研究の1年目から3年目（最終年度）にかけて、継続して発達障害児、特に広汎性発達障害児の自尊感情とその規定要因について、3年間の縦断的研究を実施し、発達の变化について検討した。その結果、少数ではあるものの、発達障害児の自尊感情については、定型発達児で報告されていたような学年進行にともなって低下するような傾向とは、一致していない可能性と個人差が存在していることが示唆された。

これら3カ年におよぶ研究成果については、随時学会発表するとともに、学術論文としてまとめきた。さらに、研究成果の普及として、小学校に訪問して研修会を開催するとともに、研究報告書を作成し、配布を行った。研究成果の一部については、インターネットにより配信を行った。

なお、本研究成果の一部については、まだ公開ができていないので、今後も未発表の研究成果について公開を行っていく予定である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

1. 小島道生 (2012) 発達障害児の自己概念と教育. 発達障害研究(印刷中), 査読無し.
2. 小島道生 (2012) 中学校教師における発達障害児の自尊感情の支援に関する実践状況. 兵庫教育大学コーディネーター研究, 8, 49-53, 査読無し.
3. Kojima Michio (2011) Self-esteem support for children with developmental disabilities provided by Japanese elementary and middle school teachers. Annual report of the Faculty of Education, Gifu University, 60(1), 165-171, 査読無し.
4. 小島道生 (2011) 小学校教師における発達障害児の自尊感情の支援に関する実践状況. 岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究, 13, 119-126, 査読無し.

[学会発表] (計5件)

1. 小島道生 (2011) 中学校教師の発達障害児への自尊感情支援に関する実践状況. 日本発達障害支援システム学会 第10回研究大会セミナー, 発表論文集, 147, 2011年12月18日, 東京学芸大学.
2. 小島道生 (2011) 発達障害児の自己概念と教育. 日本発達障害学会第46回研究大会, 発表論文集, 31-35, 2011年8月20日, 鳥取大学.
3. 小島道生 (2010) 小・中学校教師における発達障害児の自尊感情の支援に関する意識. 日本LD学会 第19回大会 発表論文集, 548-549, 2010年10月10日, 愛知県立大学.
4. 小島道生 (2010) 発達障害児の自尊感情の支援と教師の自尊感情との関係. 日本特殊教育学会第48回大会 発表論文集, 775, 2010年9月20日, 長崎大学.
5. 小島道生 (2010) 高機能広汎性発達障害児の自尊感情と影響要因.

日本発達障害学会 第45回研究大会 発表論文集, 2010年9月5日, 東海大学.

[その他]

ホームページ等
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~mkojima/newpage8.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小島 道生 (Kojima Michio)
岐阜大学・教育学部・准教授

研究者番号: 50362827

(2) 研究分担者

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号: